

中央大学父母連絡会

Kusa no Midori

草のみどり

March

3

2020年3月

Vol.318

巻頭特集

1 公認会計士試験合格祝賀会

2 What's New! 商学部



Chuo University Parents Liaison Association

GLOMAC

Global Management of Chuo University



いまむら しんゆう
今村 心祐

国際経営学部
国際経営学科1年
北海道北見柏陽高校出身



ホワイトハウスをバックに記念撮影

国際経営学部第1期生の活動報告

北の大地からワシントンD.C.へ

初めての海外はワシントンD.C.

私は、2019年の夏に国際経営学部で短期留学プログラムでワシントンD.C.を訪れました。今まで日本から一歩も出たことがなかった私にとって、人種や文化の違う場所での研修は、自分の将来について見つめ直す良い機会となりました。

日本の労働環境改善の力ギ

まず私は、人の働き方に感銘を受けました。アメリカ人の人間味あふれる業務態度は、お互いがビジネスの関係以前に人間同士であることを思い出させてくれたからです。

それは、私が現地向かうためユナイテッド航空の旅客機に搭乗したときのことでした。出発前の機内では客室乗務員の女性が荷物を客席上の収納棚に詰めていました。その際、彼女

は荷物が収納棚にびつたり
と入るたび、「なんてすば
らしい日なの！」とうれし
そうにつぶやいていたので
す。おそらくこれはマニユ
アルにはない彼女の癖だと
思われますが、私の心はど
こか懐かしいようなあたた

かさに包まれました。日本でそのような気持ちになれたのは地元の個人経営のカフェくらいで、アメリカの大手航空会社の機内で感じられるとは思いませんでした。

今の日本には「社畜」や「過労死」という言葉があります。特に、過労死はそのまま“Karoshi”として英語圏でも認知されている始末です。私はまだ大学生なのでオフィス内の実状はわかりかねますが、自分を尊重しつつ相手も尊重するという、人として当然の行為ができさえすれば、日本の労働環境は改善されるのではないかと推測します。

グローバル人材の心得

ワシントンD・C.での研修で出会った方々は、どなたも年齢の差を感じさせないほどの熱意がありました。そんな方々との交流を通して得たものは、世界を相手に活動するための心構えです。

「あなたたちはまだ失うものがないのだから守りに入らず挑戦しなさい」という言葉が心に残っています。言葉そのものの力強さだけでなく、言葉を聞いた回数が多いのが心に残っている理由でしょう。ワシントンD・Cで活躍する方々だけでなく、今回の留学を引率してくださった綿貫先生でさえ、同じようなことをおっしゃっていました。

私が綿貫

先生に世界銀行内のカフェで、国際的な人材のめざし方について伺ったときのことで

す。先生はアメリカの大学院を卒業後、発展途上国に対



研修先での集合写真



研修先での集合写真

決意

私は日本をより良い国にするために尽力するつもりです。恩返しもかねて、まずは地元の北海道から挑戦していこうと思っています。